

# 2200時間かけて学べば、

# 誰でも 英語で考える 人になる

小学校での  
外国語必修化も始まるし、  
わが家も英語と無縁では  
いられないようだ。

「早いほどいい?」

「ネイティブ先生で  
ないとダメ?」——。

英語学習の常識を専門家に  
チェックしてもらった。

宮内 健=文 井上陽子=イラストレーション

ずっと日本にいても喋れます

教えてくれた先生

## 酒井邦嘉先生

東京大学大学院総合文化研究科准教授。「言葉は脳でどうやって習得しているのか」といった脳と言語をテーマに研究する。著書に「言語の脳科学」「脳の言語地図」等がある。

## 和泉伸一先生

上智大学外国語学部英語学科准教授。第二言語習得研究と英語教育を専門にしている。各地の小学校での英語指導法の助言など実践活動も積極的にしている。

## デイビッド・セイン先生

エートゥーゼット英語学校校長。長年、日本人に英語を教えてきた経験を基に、『その英語、ネイティブにはこう聞こえます!』等、多数の著書を執筆。英語学習者に支持されている。





**英** 語学習について面白い実験がある。「英語の学習を始めたばかりの中学生の脳の活動を調べてみると、成績の高い生徒ほど活動量が増加しています。一方、同じ中学生でも6年間英語を学習した生徒の脳では、逆に成績の高い子ほど脳の活動量が低い。これはネイティブが英語を使うときの脳活動に似ています」(酒井准教授)

英語に慣れていない学習初期は、ネイティブの人なら使わない脳の領域まで使って対応しようとする。だから一生懸命勉強する子ほど脳の活動量が増える。ところが能力が向上すれば、余分な領域を使わなくてもパッと答えが出せるようになる。

最初は必要以上に力んでいた水泳の初心者も、慣れるにつれてむだな力を使わずに泳げるようになる。新しい能力を身に付けることは余分なものを捨てる過程でもあるのだ。英語脳へ近づくということは、文法や単語の知識を総動員して考えなくてもパッと答えが出てくる省エネ型の脳になることを意味する。

では、その水準に達するにはどれくらい時間がかかるのか。米国の研究機関のデータによれば「英語が母語の人が日本語を仕事で使えるまで話せて読めるようになるのに必要な時間は2200時間」(酒井准教授)。逆に、日本人の英語習得も同じ時間がかかるという。学校の授業が年間40週とすると、週5日、毎日2時間学んでも6年ほど必要な計算だ。

しかし、実際にそうした学習環境を用意することは難しい。英語教育を専門とする和泉伸一上智大学外国語学部英語学科准教授は次のように指摘する。

「英語学習で特に重要なのが、英語に触れる機会がどれだけあるかです。インプットの量が限られていれば、いくら言語習得に有利と言われる子供でも、何歳であろうと身に付けることはできません」(和泉准教授)

Q 日本語脳はどうすれば英語脳になるの？

**生** まれてからずっと身近にあった日本語が特に努力もせず身に付いたように、英語も自然に習得できればいいのに……。

英語で苦労した親なら誰もがそう望むだろう。だが、後から外国語を習得する難しさは必然である。言語と脳を研究している東京大学大学院総合文化研究科の酒井邦嘉准教授に解説してもらおう。

「赤ちゃんの脳は、周りの人が話す言葉に対してとてもうまく適応します。したがって、日本の家庭環境で育つと発音や文法、語彙などあらゆる側面で日本語に特化してチューンナップされるのです。他の言語を受け付けないのはその裏返しで、日本語にチューンナップされた脳は英語だって日本語のように聞こえるし、日本語のように英語を話してしまう。

たとえるなら私たちの脳は高度なチューンナップを施されたF1カーのようなもの。サーキットで最高のパフォーマンスを発揮しても、悪路のオフロードでは役に立ちません」

waxedという単語を聞いても、日本語脳には[kst]ではなく[kusuto]と母音を入れて聞こえてしまう。よく言われる[r]と[l]の音が聞き分けられないのも、日本語を正しく聞き分けるためにチューンナップされた結果である。

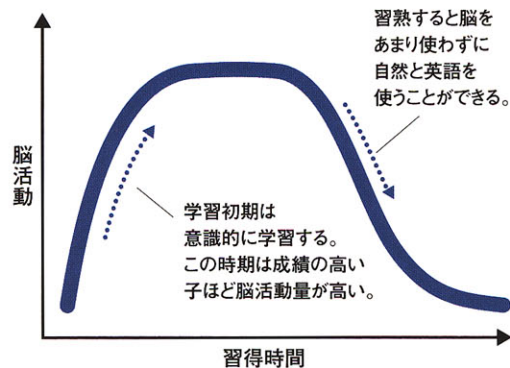
一方で日本語なら、携帯電話から話がとぎれとぎれに聞こえても内容を理解できる。私たちが英語をなかなか習得できなかったのは「語学のセンス」がないからではなく、優れた日本語の感覚を持つからなのだ。

ということは、もう日本語がしっかり身に付いた小学校高学年の子に英語のCDを流しっぱなしにして聞かせても、自然に英語の発音が身に付くことはない。優秀な日本語脳が日本語の発音として聞いてしまうだけだ。

それでは一度、日本語脳となった頭に英語を学習させるにはどうすればよいのか？

Q どうして日本人は英語が下手なの？

学習時間とともに省エネ脳になる



英語が苦手なのは優れた日本語脳だから？

● 言語の脳は4つの要素から

- 単語** 幼児期に抜群の吸収を示す一方、一生かけて習得する。外国語も、大量の自然なインプットが重要。
- 音韻** その言語の音を聞き分けられること。日本人が[r][l]を区別しないのも日本語を聞くには都合がよいから。
- 文法** 語順など文のルール。日本語が身に付いている年齢なら、「主語+動詞」など理論で効率よく学べる。
- 文章理解** 上の3要素を駆使し、言葉のニュアンスや意図、心情を読み取る。長い時間をかけゆっくりと培われる。



## 英語の早期教育に母語への弊害は

### ▶ 日本語も中途半端になってしまうのでは？

集中的に英語をやる子は、母語もあやふやな状態がおこりがちだが過渡的なもの。複数言語を操るのは脳にとって自然。

### ▶ 深い思考ができなくなるのでは？

複数の言葉をもつことで、思考プロセスも複雑になるので、より深い思考ができるようになる可能性も。

### ▶ 子供の脳への負担が大きすぎない？

人間の脳の容量は複数の言語でも心配はない。ヨーロッパには2カ国語、3カ国語が流暢な人は当たり前にいる。

**日** 本語が不十分な時期から教えると子供が混乱する、あるいは負担が大きくなるという心配もよく聞かれる。特に日本語の習得が中途半端になってしまうと思うものだが、和泉准教授は心配ないという。

「習得の過程で、日本語でしゃべっていても英語が混ざってしまうといったことがおこるのは当然のことです。子供が混乱していると思いがちですが、最近の研究では子供はちゃんと理解して使い分けているということがわかっています。ここはちゃんと伝えたい、このニュアンスは別の言葉では言い表しにくい、あるいは親近感を持たせたいといったときにポンと言葉を変えているのです」

でも、日本語を覚えるだけでも脳は精一杯なのではないか。酒井准教授は「脳の容量という心配はありません。脳は複数の言語に対応できる柔軟性を持っているのです。父母が別の言語を話す家や、オランダなどのように多言語に同時に触れる地域で育つと子供は自然にバイリンガルになる。脳が複数の言語と触れるのは当たり前で、単一の言葉しか必要としないほうが珍しいのかもしれない」という。日本語だけしか使っていないと、言語脳の成長を妨げているのかもしれない。

さらに、小さいときに複数の言語に強く触れた経験を持つと、未知の言語に接したときに習得が早いという。

「例えば、母音の種類は言語によって異なります。『アの口の形でエと発音』という英語の発音指導を覚えている方もいると思いますが、『ア』と『エ』の間にも音のバリエーションがあると脳が認識していれば、初めての音にも順応しやすいのです」（酒井准教授）

小さいときに英語に触れるとこうしたメリットがある。教育対効果を考えて取り組むかどうかを決めるとよいだろう。

**Q**

早期英語は日本語に悪影響はないの？

## 小学生の英語活動

小学校5・6年生で週1コマ = **70** 時間

### ▶ 時間数が足りない？

授業時間以外でも英語と親しむ機会を。単語を覚えさせる「勉強」にしてしまうのは×。

### ▶ うちの学校の授業の内容で大丈夫？

“What time is it now?” など決まった文法課題だけを反復させるのは×。料理などの課題に英語で取り組むのがよい。先生は必ずしもネイティブでなくても、子供たちが英語を楽しんでいるようなら○。

**英**

語習得にたくさん時間がかかるなら、子供が小さい頃から始めたほうがよいのだろうか。

「子供は発音やヒアリング力の感受性が高いことは確かです。早く始めればその分、アドバンテージは生じます。ただ、週に1時間程度の学習でネイティブのようにペラペラになれるとは、過剰な期待です。多少のアクセントはあっても、国際人として英語をきちんと使いこなせる能力を身に付けるには、中学生からでも大丈夫です」（和泉准教授）

最初は小学生から始めた子供との差があっても、一生懸命勉強すれば半年もかからないで追いつく場合がかなりあるという。東大の酒井准教授も、大学生を対象にした実験で、中学生からスタートしても、6年間しっかり時間をかけて学習した子供の脳が省エネ型になっていることを確認している。

また、英語の早期学習には陥りがちなワナがある。ネイティブの立場で長年にわたり英語教育に携わってきたA to Z 英語学校のデイビッド・セイン校長の説明を聞こう。

「『英語が好き』という気持ちをキープできれば、子供は自主的に学習して英語がうまくなる。でも、せっかく小学生から英語を始めても、親が無理に押し付けたり叱ったりすれば、早く英語嫌いになるだけです。親は自分が英語で苦労した経験から子供に英語を学習させ、その結果をすぐ欲しがろうとしがちですが『将来のため』『あなたのため』と言っても子供にはわかりません」（セイン校長）

イヤイヤ学ぶ“お勉強”では逆効果になってしまう。発音を心配する声もあるが、「後で直せます。ある米企業のコールセンターはインドにありますが、1カ月でオペレーターの訛りをアメリカ英語に矯正できるそうです」（セイン校長）。それより英語が好き、楽しいという気持ちを育むことが大事だという。

**Q**

小学生のうちから始めないとダメなの？



# 英語では「なぜ?」と子供のときからよく聞かれます

## 言

語習得で重要なポイントは、豊かなインプット。だが、現在の学校における英語教育は、この点において課題を抱えている。

「What time is it?」など同じフレーズを何度も反復し、児童に定着させようとする授業があります。でも、算数の式とは違い、定型の表現を積み重ねて暗記しても、言語習得にはあまり役立ちません。表現を自然に使う状況を作ることが大事なのです(和泉准教授)

料理を作る過程を英語でやるといった、タスク中心の授業が効果的だという。

「親が注意したいのは子供に『今日は何を覚えたの? 言ってみなさい』などと強要しないこと」と和泉准教授。「言語習得は、必ずしもすぐ見える形で起こらないもの。すぐ見える成果は、すぐ失われる成果です。聞き覚えがある、文脈中で理解できる、文脈の中でなくても理解できる、といった段階を経て最後に自然と言えるようになるのです」

また、言語習得はU字型の曲線を描くことも知っておこう。子供は最初、丸暗記の知識をそのまま使って間違いをおかさないが、やがて文法などの法則が身に付いてくると、かえって間違いが増えるのだ。子供のミスの増加は発達の証し。親はおおらかに見守ろう。

セイン校長は英語の本を親が子供に読んでやることを勧めている。

「カタカナ英語でも間違えても構いません。親子で楽しい時間を一緒に過ごすことが大切。親が楽しんでいれば、子供も必ず興味を持つ。そして英語が好きになれば大成功です!」

英語の習得には何年もの長い時間が必要だ。最強の英語メソッドとは、方法論ではなく、そんな学習を継続できる「英語が好き」という気持ちを育てることだろう。親自身が英語に親しみ、面白さを伝えてやる。それが、わが子の英語脳をつくる第一歩だ。

## Q 正しい英語の学習メソッドは?

## 論

理的な言葉である英語を学ばせれば、子供にロジカルな思考が身に付くのでは……。 「フレーズや慣用句レベルにおいて、英語は決して論理的とは言えません。教えていると、本当に嫌になりますよ(笑)」(セイン校長)

たとえば次の英文を訳してみよう。

I can't wait for you to come.

「あなたが来るのを待てない」とも「あなたが来るのを楽しみにしている」という意味にも取れる。文法の例外も多く、英語はかなり不合理な部分があるとセイン校長は説明する。

弁護士は日本語で論理的に弁護を行い、科学者は日本語でロジカルに論文を執筆している。どの言語でもその使い手によって論理的になり得るし、逆もまた同じである。

ただし、日本語ではあまり投げかけられない質問が英語圏では多く投げかけられるという社会的、文化的な違いは存在する。その質問とは「Why?」「Why not?」である。

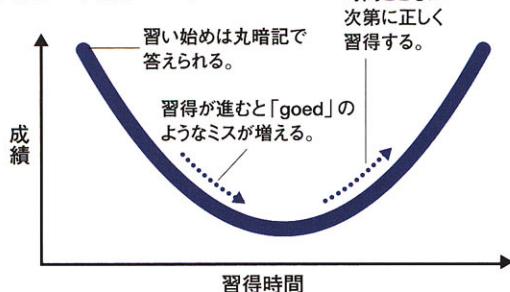
「『映画が好き』と言った後、『なぜ好きなの?』とはあまり日本語では質問しませんが、英語では子供のときからよく聞かれます。子供は理由を考え、意見を筋道立てて話せるように鍛えられる。日本語が非論理的で英語が論理的というよりも、そういう訓練を日常的に行っているかどうかです」(和泉准教授)

言葉を打ち返し合うテニスのような英語の会話とは対照的に、「投げっぱなし」の日本人の会話はボウリングのようだといわれる。論理力やコミュニケーション力は、言葉の問題ではなく、社会的、文化的な問題といえる。

英語を習うなかで、論理思考に慣れたネイティブと話したり、彼らが書いた文章に触れることで、論理力が鍛えられるということのようだ。「国語で英語圏と同様の訓練をすれば論理的思考が鍛えられ、英語学習にもよい影響を及ぼしますよ」(和泉准教授)

## Q 論理力・コミュニケーション力が身に付くのか?

### 英語の習得はU字カーブ



最初はどんどん新しいことを覚えるが、間違いが増える時期が。成果が見えずともじっくり伸びるのでおおらかに待って。

### あいまいな英語の表現例

#### I know whom Peter knows.

「ピーターが知っている人と知り合い」なのか「ピーターが誰を知っているかを知っている」のか。

#### I'm glad I'm a boy, and so is Peter.

「僕が男の子であることが、僕もピーターも嬉しい」のか「僕とピーターが男の子であることが、僕は嬉しい」のか。

英語にも、日本語と同じようにあいまいな表現はたくさんある。違うのは、あいまいなところを「Why?」「What?」と突き詰めて考えさせる教育習慣だ。